

キラリ 山形 元気な 会員企業

わずか15坪のプレハブの建物から物語は始まった。

父の後を受け継ぐ形で機械部品加工の仕事が始めたが、折からの不景気と重なったこともあり、まとまった受注はなく、借り受けた中古の旋盤2台で妻の範江さんと2人、あらゆる仕事をこなした。仙台市の工場に農業機械の部品を納めるため、関山峠を1日2往復した。社員を募集しても、建物を見て将来性がないと思っただけ素通りした。

■新幹線の座席シート部品を加工

そんなある日、飛躍の機会が訪れた。「削り屋」としての仕事ぶりを聞きつけて、商社が仕事をもち込んできた。新幹線座席シートの構造を形成するアルミ製部品加工の仕事だった。納入先は小糸工業(現・コイト電工)。新幹線の旅客用シートを開発・生産する大手メーカーだった。

忙しくなって来た。受注に対応するため、東京・晴海の見本市に当時

話題となっていたマシンングセンターを見に行き、思い切って1台導入した。シートが車内一列に寸分の狂いもなく並ぶよう、加工方法に工夫を凝らした。現場からの発想を基にコスト低減策を設計者に提案し信頼を得た。やがて商社を仲介せずに取り扱えることとなった。「東京駅のホームに立って、ある種の感慨を覚えたことがある。入線する新幹線のほとんどが、自分たちの工場で作ったシートが設置されているのだから」(伊藤隆代表)。

JR東海、西日本、九州で営業運転している新幹線N700系の「のぞみ」「ひかり」をはじめ、「成田エクスプレス」、2階建ての「MAX」はいうに及ばず、台湾や中国の新幹線。さらには3月に開業した北陸新幹線の「かがやき」「はくたか」などのすべての座席シート、座席前の食用テーブル、座席回転部品が丸範工場で作られている。

「JIS Q 9100」を取得した。「ボーイング777」「エアバスA350」や、「ACS(エアバスカタログシート)」など手掛けて実績を挙げている。「航空機ではより快適さと安全性が求められている。航空会社は顧客の満足度を高めるため、クオリティの高いシートを要求する。高度な精密加工技術と品質管理に基づいて要求に添えていかなければならない」(伊藤隆代表)。



■「JIS Q 9100」を取得

飛躍は続く。航空機シート部品製造の仕事をしてはどうか、と声がかかった。航空・宇宙・防衛関係の仕事を受注するためには、確かな技術はもとより、受注から納品まで徹底した品質管理が求められる。そのために、「BSK」(公益財団法人防衛基盤整備協会)から、国際認証「JIS Q 9100」を取得した。「ボーイング777」「エアバスA350」や、「ACS(エアバスカタログシート)」など手掛けて実績を挙げている。

「航空機ではより快適さと安全性が求められている。航空会社は顧客の満足度を高めるため、クオリティの高いシートを要求する。高度な精密加工技術と品質管理に基づいて要求に添えていかなければならない」(伊藤隆代表)。

藤代表)受注額はかなりの部分を占めるまでになった。

■わらをもすがる思いで会議所に新幹線シートの仕事を持ち込まれたころのことだ。工場を拡張し、工作機械を増設するため資金が必要だった。しかし、思い通りにはいかなかった。用向きを終えて市役所を出て、ふと顔を上げると目の前に「無担保・無保証人・低利・マル経融資。経営に関するご相談はお気軽にどうぞ」の垂れ幕が飛び込んで来た。その足で山形商工会議所を訪れて事情を説明し融資を申し込んだ。

融資を受けるには会議所の会員になることが条件だった。「わらをもすがる思いだったのだからねえ。一般の金融機関と同じように考えていた。もちろん即座に会員となった。今では笑い話だが。本当にありがたかった。融資範囲内での工場増設とあって、思い描いた通りにはいかなかった。その名残が工場建物内に撤去さ



航空機産業の育成に乗り出した県の担当者に工場を案内、製造過程、厳密な生産・検査過程を説明しアドバイスする伊藤代表取締役(右)



縦一列に寸分の狂いもなく並ぶシート。独自の製造過程での工夫が直接取引の決め手となった。



工場内には最新式のマシンングセンターが設置され社員一人ひとりが管理責任と環境整備を担当する

新幹線から航空機業界に参入

れずに建つ電柱に見ることが出来る。

敷地は今では約1千坪となった。5軸、立型、横型の各マシンングセンター、CAD・CAM、3次元測定器、平面研削盤と高精度加工機器を導入した。航空機整備、航空機器製造事業を展開している(株)ジャムコの直接取引業者となった。

■少数精鋭、生きがいある仕事を

社員は少数精鋭主義を守る。「20人の社員が国際認証をしつかりと認識し、仕事に取り組むことが大切。強固な集団を作り、社員一人ひとりが、仕事に生きがいをもってもらうことを第一に考えたい。以心伝心の関係、互いに感謝の心を持つことこそが加工技術を磨き、顧客満足度の高い製品提供を可能にする。それが原点」と語る。

国際認証取得には長男の故大輔氏の存在が大きかった。取得に関するマネジメントの指導を受けるため名古屋に向かおうとして、仙台空港で東日本大震災に遭遇した。そうしたこともあり病に倒れた。「これからの息子の時。どれほど無念だったか。息子に感謝し、息子の分までも頑張らなければ」と伊藤代表。

感謝の心は社名にも表われている。「丸範」の「範」は、二人三脚、汗水流して苦勞を共にした範江夫人の一字からなる。